

## 第1回鹿児島市多機能複合型スタジアム検討協議会

日時：令和5年7月25日（火）14時00分～16時00分

場所：鹿児島市国際交流センター 1階 多目的ホール

### 会次第

- 1 委嘱状交付
- 2 開会のあいさつ
- 3 鹿児島市多機能複合型スタジアム検討協議会について
- 4 会長選出
- 5 議事（これまでの経緯説明、意見交換）
- 6 閉会

### 意見概要

（A委員：関係団体）

県と市の連携が課題。

県の土地、市の案件、といったことは市民には関係のないこと。県民・市民が誇れるもの、他県に自慢できるものをデザインしてほしい。県と市と一体となって進めてほしい。

（B委員：関係団体）

本港区エリアにスタジアムができれば回遊性も高まると期待。

試合をあまり見に来ない層がどうしたら利用してくれるかといった視点も非常に重要。

「多機能複合型スタジアム」という名前も冠しているので、今後に期待。

（C委員：関係団体）

回遊性があって利便性のある中心市街地にスタジアムを作ることはとても良い。ただスタジアムを作るのではなく、県と市の連携が必要。

特に桜島フェリー周辺は交通渋滞も発生するので、地域全体を見て議論を進めていく必要がある。

（D委員：大学生）

立地としては北ふ頭がとても良い。活気のある街にするために、若者から高齢者まで幅広く使える施設の建設が大事。1年中どんな世代でも利用できる鹿児島を代表する施設になれば。

（E委員：大学生）

情報に強い若者にすら多機能複合型スタジアムが認知されておらず、行政の情報発信が課題と感じる。SNSも利用しながら発信していくべき。

北ふ頭へのスタジアム建設はとても良い。仮に郊外に作ったとしても、時間や交通費の面から行きたい気持ちが薄れる懸念がある。若者を固定客にし、将来に渡って利用し続けてもらうためにも、中心地に作るのが良い。

(F委員：大学生)

立地に関しては、北ふ頭は桜島や錦江湾の自然が望める場所が良い。

県や市には、若者への周知をお願いしたい。実際自分自身もサッカーだけだと思っていたので、多機能であること、複合型であることを周知してもらえれば、若者の意見も取り込めるのではないかと。

(G委員：専門家)

(説明にあったアンケート結果において) 女性の返答率が2割ということが気になった。県内外からの理解を得て利用していただくために、サッカー以外の使い方も非常に重要。

8割男性のアンケートだけでなく、県民の半数である女性の意見も収集していけるとよい。

(会長)

テキストマイニングは便利な手法であるが、性別や年代別で見るとどうなのか、といった視点で解析していくと新たな知見が表出するかもしれない。

(H委員：専門家)

鹿児島県のスポーツはポテンシャルがある。また、スポーツと街づくりは相性が良い。将来を担う若者の夢となる施設ができるといい。

気になるのは広報の部分。市民・県民にもう少し丁寧な説明が必要という印象。例えば去年ワールドカップの際、市長がスタジアムに関する広報活動をしていたが、そういった機会を増やす等、積極的な説明の機会を設けると良い。

(会長)

鹿児島ユナイテッドFCの試合において、特別支援学校の生徒が始球式をやっていた。費用対効果が議論されている中ではあるが、教育的価値という側面もある。

(I委員：関係団体)

鳥栖は7.5万人程度の人口だが、試合日は最大1.5万人のサポーターが来て街が賑わう。鹿児島においても、市内中心部の回遊性が高い立地が良い。

魅力ある施設を作り、キャンプや大会誘致の部分で競争し、勝ち取っていく必要がある。

個別の立場から言えば、会場の近くにホテルや飲食店がある、公共交通機関が充実してい

るところという視点は大事。そういった観点でもご検討いただければ。

(J 委員：専門家)

各委員からも北ふ頭の立地は素晴らしいというコメントを今日聞くことができた。地元の総意として北ふ頭を推挙するのであれば良いのではないか。

港湾事業者、商業、地元に対し、丁寧に議論・説明をしてほしい。

北ふ頭本来の機能を害さないか、既存の事業者にとって連携できる施設か、騒音や渋滞の問題もある。特に住民への説明を丁寧に行った印象があるのは北九州市のスタジアム整備計画の事案であったと感じており、ヒアリングに行くと良い。

最後は希望ではあるが、今後スタジアムの整備費を負担する際、都市景観に溶け込むスタジアムという観点も大切にしていきたい。

(K 委員：学識経験)

建築を設計する際、実現可能性が大切。

その観点から第1に港湾関係者とのすり合わせが必要。港湾計画策定部署ともよく連携すべき。

第2に、埋め立て地であるが、地盤状況はどうか、流動化現象は大丈夫か、ケーススタディが重要。

第3に交通量問題。何万人の集客があった場合に、車か、手前に駐車場を作ってシャトルバスを出すのかによっても異なる。物流・人流との関係性をどう考えるか、緻密に交通量調査をする必要がある。

第4に景観のシミュレーション。港湾計画とも関係するが、グラウンド部分を掘り下げて建物全体を下げるなどの構想も可能。

最後に、多機能と謳っているが、どういった機能を持たせるのか。水族館との相乗効果をどう持たせるのか。桜島を見ながらビアガーデンや結婚式などのイベントなど、水族館のお客さんも喜ばせる、相乗効果を狙ったスタジアム建設が必要。

(L 委員：関係団体)

本港区エリアは非常に注目している。ただ、団体としては様々な業種や考えがあるので、スタジアムに関する提言は現段階では持ち合わせていない。他方、中立的な立場として、行政や若者をつなぐ架け橋という役割を担っていきたい。スタジアムも含めた本港区について考える機会の創出に協力していきたい。

(M 委員：学識経験)

第1に北ふ頭については非常に現実的。今後具体化を検討することが有効。本港区エリアのポスターセッションを拝見し良い意見も多くあったので、全体が崩れないように組み合

わせて、本港区一体となるデザインができれば、桜島を望むランドマークのような存在となれば、海外の方にもウケる。

第2に、社会教育の観点からも多機能複合型というのは時流。地域まるごと博物館、エコミュージアムという考え方があるが、スタジアムにも文化面、社会教育施設、地域遺産要素も同居した空間デザインができれば、都市型の個性的なエコミュージアムになる。桜島と都市景観が溶け込んだデザイン次第。防災ツーリズムの観点も取り入れて、目的型観光や教育観光にもいい影響となる。

第3に、データに基づいた議論が必要。鹿児島ユナイテッドF Cの試合でアウェイのチームが多く鹿児島を訪れることや、多くの社会教育的な地域貢献活動を行っていることについてどの程度知られているか。鹿児島レブナイズや鹿児島ユナイテッドF Cのおかげでエンタメの機運が高まりつつある。学生のグループワークにおいて鹿児島にはエンタメが足りないという意見がよく出るが、鹿児島も新たな動きがあると若者が実感できれば、若者の地元定着につながるかもしれない。

最後に、様々なデータに基づいた冷静な議論、県と市の連携による全体のデザイン、港湾関係者、交通関係者との丁寧な調整、議論、市電の延伸と回遊性も含めた交通関係の整備、人流・物流の検討、稼働率についての検討も必要。

地域社会がカルチャーの芽生えを封じることがないようにしていただければ。

(事務局)

先ほどから周知が足りないというご指摘をいただいている。今後、若者向けのワークショップの開催を考えているが、「多機能複合型」という言葉を聞いて何をしようとしているか分かるか、若者にお伺いしたい。サッカーだけではないとニュアンス的に分かるようにしたいのだが、参考になるようなことがないか。

(E委員：大学生)

鹿児島ユナイテッドF Cの試合も頻繁に観戦しており、グルメなども楽しんでいる。さらにエンタメを生むところとして、遊園地は難しいかもしれないが、例えば長崎のようなジップライン、子供が楽しめるような場所を作る等、スポーツに興味がない人を取り込むきっかけにもなるし、エンターテインメントになり得る。

(I委員：関係団体)

北九州もジップラインを通そうとしており、スタジアムを含めた賑わいづくりの計画が進んでいる。佐賀アリーナも様々なエンターテインメントを工夫し、試合と空間を楽しむといった取り組みを行っているところもある。

(J 委員：専門家)

象徴となるネーミングをどうするか、というのは一つ大きな観点。

あくまでもユナイテッドの試合を都市景観の中で楽しく観戦できる機能であるべきではあるが、機能を広げたネーミングを北ふ頭全体でキャッチフレーズとして作るの是一案であると思う。

(会長)

「人を集める」ということに関連して、鹿児島ユナイテッドF Cの平均観客数はどれほどか調べると、5,200 人を超えており、これはJ3の中では2位。2016 年も、チーム順位7位であったにも関わらず、集客は1位である。一定層の支持層、ファンがいるということも事実。北九州や長野、松本山雅など、スタジアムを保有しているチームと比べても集客率はユナイテッドのほうが高い。ユナイテッドは「鹿児島をもっと一つに」というスローガンのもと、地域貢献に取り組んでおり、こういった活動の積み重ねがファンの獲得につながっていると推考。

(B 委員：関係団体)

一般の方から温泉というキーワードが出てきていることに興味がある。スポーツと温泉というのが非常に面白い組み合わせ。

6 万トン級のクルーズ船が着岸できるような施設は商店街からも非常に魅力的。複合的な機能をどのように捉えているか。

(事務局)

市民の方は温泉のイメージが強いようなので、受け止めなければならない要素の一つだと思う。また、クルーズ船についても、スタジアムと連携して、受け入れ体制の強化という点も併せて考えていきたい。

以上